

～ 戦後80年 記憶の継承 ～ No.2

沖縄戦の終戦から80年を迎えた今日、戦争体験者の減少、戦後世代の増加と相まって、戦争の歴史的教訓が年々風化し、その悲惨さが忘れ去られようとしています。

西原町は、戦争体験者の方々からの貴重な体験談を紹介し、次世代へ継承していきます。

戦火の中、隠場を求めて (西原町史 第三巻 資料編二 西原の戦時記録より)

城間栄吉(当時36歳) 農業

日本軍による壕追い出し

昭和19年の10・10空襲の時、安室部落は爆撃は受けなかったが、那覇が炎上したり、西原製糖工場が爆撃されたりしたので、私たちも一応壕に避難した。南部へ避難する前、最初は自分らの墓(所在地は桃原部落にあるウチュー森)に避難したが、米軍が上陸し、戦闘が激しくなった後、妻方の墓に避難した。ところが、日本兵がやって来て、「この地域は第一線になっていて戦闘が行われるからこの壕(墓)には日本軍が入る。君たちは島尻に避難しなさい。島尻には日本軍の掘った壕があるから、君らはこの壕の代わりに島尻の軍の壕に入りなさい」と言った。私たちはその言葉を信じて墓を出、島尻へ避難した。しかし、島尻には日本軍が交代すると約束した壕はなかった。一緒に避難したのは、私の家族4人に桃原部落の妻方の家族5人、合わせて9人でした。

移動また移動

桃原の墓を出て大里村の湧稲国部落に行った。食料は、米、砂糖、澱粉粉など軽目の物だけ持って行った。湧稲国は戦闘もなく静かで、別の家族も一緒になったので、4家族共同で壕を掘り、約1カ月ほど生活していた。しかし、そのうち、米軍が近くまで進攻して来た。最初は日本軍か米軍かわからなかったが、訳の分からない言葉で喋っているのが聞えたので米軍だとわかり、すぐ逃げた。湧稲国から具志頭村の与座へ逃げて行って与座で一晩過ごした後、真壁村の新垣部落へ行った。

昼間は米軍機が飛び交っていて危ないので、逃げるのはいつも夕方以後でした。新垣も危なくなかったので、今度は高嶺村国吉へ逃げた。国吉からは昼夜の別なく、国吉から別の所へ逃げる人もあれば、別の所から国吉へ逃げてくる人もあり、逃げて行く人と逃げて来る人が入り乱れてどこへ逃げたらいいのかわからないような混乱状態でした。私たちは国吉を出て、今度はまた真壁村の伊敷へ行って山や壕の中に隠れ、更に、糸洲へ逃げ、糸洲から喜屋武村の福地に逃げた。福地では岩陰で隠れていたが、日本兵が来て、「敵がすぐ近くまで攻めて来ている。ここは第一線になるから君たちは出て行きなさい」と言った。私たちは仕方なく山の中に逃げた。ところが、米軍が私たちの隠れ場所を包囲し、小銃弾をどんどん打ち込んできた。小銃弾で木の枝が押し折られるやら、子供が負傷するやらで非常に生命の危険を感じたので、ハンカチを振った。そうするとやっと銃撃が止んだ。

捕虜

米兵が「糸満、お菓子、糸満、お菓子、出て来なさい」と呼び掛けて来た。何人かの者が米兵の所に行ったが殺されなかったので、私たちも手を挙げて出て行き、とうとう捕虜にされてしまった。子供は銃撃を受けた際、負傷していたが、言葉がわからないので、米兵に話すことができなかった。それでも、手真似で子供が負傷していることを伝え、治療して包帯を巻いてくれた。捕虜になった者たちは、いったん、糸満に連れて行かれ、そこで男と女・子供は別々にされた。そして雨降る中を今度はトラックで宜野湾村野嵩に連れて行かれた。銃撃で負傷した子供は、野嵩で息を引き取った。野嵩から更に山原・国頭に連れて行かれた。

「西原町史」は西原町立図書館でご覧いただけます。

文化財コラム

内間村跡発掘調査速報

内間村跡は、令和4・5年度に字内間の集落北側に所在する拝所(カヤブチ御殿※)に近接する敷地で実施した試掘調査により発見された集落遺跡です。発掘調査は、当該敷地の南側に、東西に伸びる長方形状(縦6.4m×横24.6mの面積約158㎡)の形で調査区を設定し、今年の2月から3月までの2か月間で行いました。

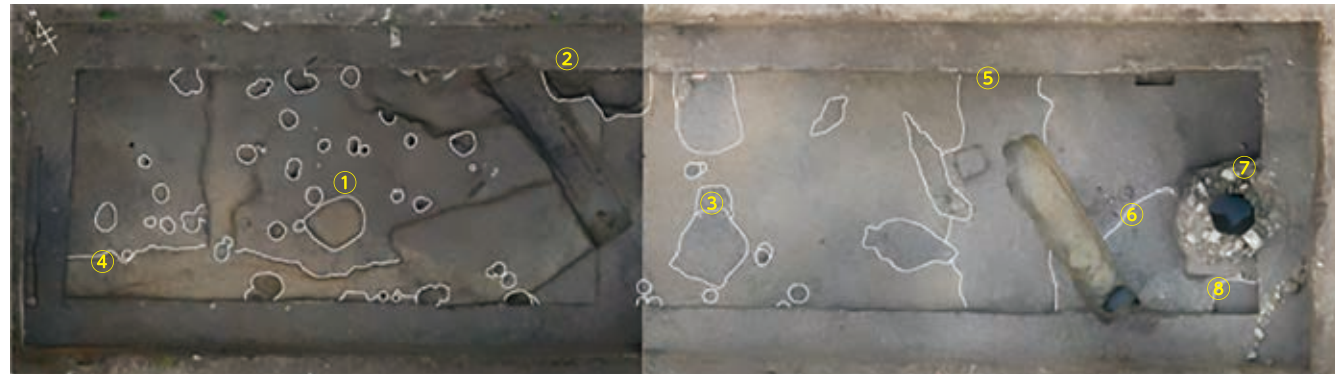
内間については、今から約300年前の歴史資料(『琉球国由来記』、『琉球国高究帳』)には「内間村」の表記が見られ、『中山世鑑』(1650年)には、1458年に金丸(のちの琉球王国第二尚氏の初代国王・尚円王)が内間の領主に任命されたことが書かれていることから、少なくとも今から600年ほど前から集落があったことがうかがえる地域となっています。

発掘調査では、調査区の西から中央付近に掘立柱建物の柱が建てられていた穴(約200年前～それ以前)と考えられる直径20～40cm台の円形状の遺構が60基ほど確認されました。また、大きな範囲で掘られた穴(土坑)も3基(①～③)確認されています。この土坑の中からは、古い沖縄産の陶器や中国産の磁器などの破片、獣骨片、貝、石材など(約100年前～それ以前)が多く出土したことから、当時の生活で不要となったもの(ゴミ)などを捨てる場所であった可能性が考えられます。この他にも、詳細は不明ですが東西に伸びる溝状の遺構(④)も確認されています。

一方で、調査区の東側一帯は、地形が東に向かって低くなり、その傾斜地に厚く堆積した土の中からは、グスク土器や青磁を中心とした中国産磁器など(約500～600年前頃)の欠片が多く出土しました。また、南北に縦断する溝状の遺構(⑤)(約600年前以降)も確認されました。溝の底面が南側に向かって緩やかに低くなっていたことから、排水などの目的で掘られた可能性が考えられます。さらに、調査区の東端では、詳細不明な溝状遺構(約200～300年前頃か)⑥や、石組み井戸が2基⑦・今から約100年前頃、⑧⑦の井戸を掘る前に使用していたと考えられる)も確認されました。

以上のことから、今回の調査では、確認された地形や遺構、遺物の出土状況から、調査区東側一帯が600年ほど前頃から「水」を排水・取水する場所として、調査区の中央から西側一帯では約200年前以前には居住区域として利用されていたことがわかり、前述の歴史資料の内容を裏付けるような成果が得られました。なお、調査区周辺一帯の地中にも「内間村跡」が広がることが推定されます。

※地域では金丸が内間ノロと一緒に過ごした場所という伝説が残っている。また、この周辺一帯が内間集落発祥の地といわれている。



●発掘調査区を真上から見た全景(上:北、下:南)

お問い合わせ：文化課 文化財係 TEL:098-944-4998

日頃の感謝を込めて♡

外壁塗装・屋根防水工事

を ご契約された方

無料見積!!

無料相談!!

毎月先着5名様

高压洗浄

無料

一級塗装技能士・一級ウレタン防水技能士・建築士のいるリフォーム店!

塗装・防水・外構

リフォーム工事の専門店!

感謝

CHURARA KOUBOU

外壁塗装・防水・外構工事の専門店!

ちゅらら工房

TEL: 098-945-7170 西原町字兼久261-2

QRコード

相続 遺言

お悩みではありませんか?

～専門家が解決方法をご提案します～

相続・遺言のことなら何でもご相談下さい。

相続・遺言の初回相談は無料です!

司法書士法人 きゃん事務所

代表司法書士 喜屋武 力

司法書士 親泊 千佳

司法書士 伊藤 徹

司法書士 波 平

与那原町字東浜 23 番地 2 営業時間 平日 9:00～17:30 (ローソン与那原東浜店となり)

TEL 8 8 2 - 8 1 7 7 (要予約)

相続・遺言に関することならこちら→

「相続・遺言おきなわ.com」

http://souzokuigon-okinawa.com/

QRコード

← QRコードか「相続 遺言 きゃん」で検索してアクセス